



ごあいさつ

がん患者会・サロン ネットワークみやぎ

代表 吉田 久美子

あなたは「がんと言われたらどうしよう」と考えてみたことがありますか。また医師から「がん」だといわれて目の前が真っ暗、頭は真っ白になったと思うことも、がん患者なら誰もが経験することです。

今、日本人の二人に一人が一生のうち一度はがんになると言われていますが、近年がん治療の進歩はめざましく、生存率が向上し緩和医療の普及によって、かつての「がん = 死」というイメージから、がんは身近な病気であると同時に「がんと共に長く生きてゆく時代」へと変化して参りました。

「がん患者会・サロンネットワークみやぎ」は、がん患者と支援者が協働し、「がんになっても自分らしく生きること」をめざして活動する団体です。2015年に発足し、現在23団体が加入しています。ネットワークでは、イベントや研修会を通して体験者の思いを発信し、患者団体の活動紹介を行うと共に、がんの早期発見・早期治療などの啓発活動を行ってゆきます。また宮城県内のがん患者・家族の声を集めて今後望まれる支援などを行政や医療機関に届ける等、患者にしかできない役割を果たしていきたいと思っています。

私たちは、様々な苦悩と対峙しながら、病はただその人にマイナスだけを与えるだけではないこと、そして自分にとっての病の意味、その体験の中でしか発見できなかったことを知りました。さらに病を乗り越え新たな人生へと向かって生きている大勢の仲間と出会いました。

がん体験者は自分の経験を通して日常生活を生きる様々な知恵を持っています。「苦しみと闘っているのはあなた一人ではない。みんなで分かち合いたい。」そんな想いで活動しています。